

社会科学研究科

学生数の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
1年次	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
3年次 編入学	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	9 (9)		7 (9)		— (—)		— (—)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	— (—)			2 (—)			— (—)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	— (2)	1 (1)	— (—)	— (—)	6 (6)			
	退学者	1 (—)	— (—)	2 (1)	— (—)	1 (1)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・ () は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1 社会科学研究科の活動

平成13年度に、文系5研究科の改組・再編が実現し、哲学思想、歴史人類、文芸言語、社会科学、国際政治経済の5研究科を再編し新たに人文社会科学研究科がスタートした。新研究科においては新たに6専攻が設置され、社会科学研究科は社会科学専攻（法学・経済学・社会学分野）として教育研究を行うとともに、新研究科は新たに部局として位置付けられ、本学が大学院を重視した教育研究組織として発足した。新研究科は新たに新専攻（現代文化・公共政策専攻）を設置し、社会科学研究科からも政治学専攻の全教官と社会科学専攻の1名の教官が参加して、現代文化の教官と協力して、より高い視点とグローバルな視野をもった人材の教育を進めることになった。これに伴い社会科学研究科は、現在在籍する院生が課程修了するまでの間、独自の教育研究活動を行うこととなった。特筆すべきは、数年前までと比べて学位取得者が著しく増加したことである。

2 教員の教育業績評価の状況

各専攻・分野により学問的伝統が異なるため、統一的な教育業績評価の基準の成案を得るにはいたらなかった。しかしながら、指導学生数、指導学生の論文執筆状況、指導学生の学位取得状況などを総合的に判断し、人事などに反映させるよう配慮した。

3 自己評価と課題

- (1) 大学院の大型化の検討に対応させて、今後のカリキュラムの方向性などについて検討を続行している。
- (2) 大型化に伴い、課程修了と学位取得者の増大に一層の努力を払った。その結果、各専攻・分野において博士学位取得者が増加しつつあり、特に中間評価論文の執筆状況は大きく改善された。その関連で発表論文数も増加した。
- (3) 学位未取得教官の学位取得の促進についても更なる努力を払い、成果を得ることができた。
- (4) シラバスの検討も続行しており、優秀な外国人教師を導入し、教育・研究の活性化を図った。
- (5) 留学生についての研究及び生活指導の強化をさらに図りつつあり、チューターの指導を強化している。また、T・Aの活動は積極的であり、さらに有効活用できるよう検討しつつある。